令和八年度　長岡大学　一般選抜（２期）

国　語

一　次の文章を読み、後の問に答えなさい。

誰でもおそらく中学生、高校生の頃に「自分」を発見する。と同時に、その反対側にある「世界」と出会う。自分を包み込んでいるもっと大きな世界。自分がその中で生きている社会環境としての世界。あるいは人によっては自然環境としての世界かもしれない。

いずれにせよ、中学生、高校生の頃に、「自分」のまわりには「世界」というものがあるのだ、という感触を初めて本当に知ることになるのだと思う。それまでは生まれ育った「家」に守られていて、自分がムボウビ[1]な状態で世界に直面しているという実感はない。

自分を発見すること。世界と出会うこと。この二つは〔　A　〕の出来事だ。世界と出会うことによって改めて自分を発見しなおす、と言ってもよい。

「世界と出会う」とは、もう少し詳しく言うと「自分にとって手も足も出ないような、人間のスケールを超えた、ある大きな力と出会う」ことだ。そういう経験がきっと皆さんにもあると思う。まだないという人も、近いうちにきっとある。「大きな力」とは何なのか、人によって違うだろうが、それに出会う瞬間は必ず訪れるにちがいない。

しかし、自分の狭い殻に閉じこもっていては、そういう機会が訪れても気づくことができない。だから、ア自分をバリアで囲い込むのではなく、何か大きな力と出会う機会に向けて、常に自分を開いていてほしい。

「自分」はつねに「世界」のさまざまな波打ち際と接している。その波打ち際はいつも近くにある。それに向けて自分を開いておく。開く勇気を持つ。

たしかに、大きな津波が来たらどうするのか。逃げられないではないか。とすると「世界の波打ち際に向けて自分を開く」のは一見、怖いこと、危険なことのように思えるかもしれない。

イでも、そうではない。

東日本大震災の大津波では、防波堤を人工的に築いても役にたたないことがわかった。でもそれはコンクリートの防波堤を超える高さとイリョク[2]の津波が来たからで、もっと高くて強固な防波堤を築くべきだ、という判断がいまだにある。けれども、本当にそうだろうか？そんなキョウクン[3]でよいのだろうか？

私たちは海という巨大な謎の世界と、自分たちが住んでいる見知った街を、防波堤というキョウカイ[4]で分断してしまった。つまり、バリアを築いて自分たちを囲い込んでしまった。そう考えてみてはどうだろう。

かつて海辺で暮らしていた人々は、海を通じて世界と対面していた。海の色、潮の匂い、波の音や高さ。これらはすべて情報のアーカイブだった。それを読み解けば、天候がどんなふうに変化するか、いつ、どのくらいの大きさの波が来るかがわかった。つまり海という巨大な謎の世界からのシグナルをキャッチできた。それは長い時間のなかで知らず知らずに身についた知恵だ。

ところが、海と人との間に巨大なコンクリートの壁を築いたらどうなるか。そうした自然がもたらす情報はシャダン[5]されてしまう。人間が海と対話することができなくなってしまう。天候の変化も、津波の危険性も察知できない。やがて海からのシグナルをキャッチする感受性は失われていく。人は生きるための大切な知恵の一つを捨ててしまったのだ。

だから皆さんに言いたい。自分を開くのは決してムボウビ[1]な仕草ではない。外の世界から発信されているさまざまな信号や情報を全身で受け止める。それは、自然に向けても社会に向けても自己を開放し、対話することなのだ。その行動を恐れてはいけない。

（今福　龍太「学問の殻を破る―世界に向けて自己を開放すること」『何のために「学ぶ」のか』による）

問一　傍線部1～5のカタカナを漢字に直しなさい。漢字は楷書で丁寧に正確に書くこと。

問二　〔　A　〕に入る言葉として最も適切なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1　表裏一体　　2　一石二鳥　　3　温故知新　　4　二律背反　　5　知行合一

問三　波線部ア「自分をバリアで囲い込む」とあるが、自分を囲い込むバリアを意味する別の表現を本文の中から抜き出して書きなさい。

問四　波線部イ「でも、そうではない」について、以下の各問に答えなさい。

①　「そうではない」の説明として、最も適切なものを次から一つ選んで、番号で答えなさい。

1　自分を守るために自分の周りをバリアで囲い込むことは、それほど難しいことではない。
2　「世界と出会う」機会に向けて自分をつねに開いておくことは、怖いことでも危険なことでもない。
3　津波に向けて自分を開いておくことは、一見すると危険に思えるが、実際は危険なことではない。
4　波打ち際に向けて自分を開くことは怖いことであるが、防波堤を築くことで恐怖を克服できる。
5　自分を発見するためには波打ち際に向けて自分を開くことが必要だと思いがちだが、実際は波打ち際に行く必要はない。

②　「そうではない」根拠を説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1　津波に備えて防波堤を築いておけば、たとえ想定を超えた津波が発生したとしても被害が少なくて済むし、その経験は今後に生かせるから。
2　自分を守るために自分の周りをバリアで囲い込めば、危険にさらされることも嫌な思いもせずに済むから。
3　自然や社会に向けて自己を開放しておくと、外の世界から発せられるさまざまな情報やシグナルをキャッチでき、変化にすばやく対応できるから。
4　波打ち際に向けて自分を開いておくと、海という謎の世界が発する情報を素早くキャッチでき、津波にも素早く対応できるから。
5　自分を確立できていれば、外の世界がどのような世界であっても柔軟に対応でき、怖いという感覚はなくなるから。

二　次の文章を読み、後の問に答えなさい。

ジャーナリストなら、現実を写真や文章で広く世界に伝えることができる。医者であれば現地に赴き、傷ついた人々を助けることができる。手品師なら鮮やかなマジックで、おびえる子どもたちに束の間の笑顔をとりもどしてやれる。だが、私はアラブ文学者だった。それはおそろしく無能で、役立たずのことのように思われた。(注)パレスチナでパレスチナ人が虫けらのように殺されている時、文学は何ができるのか？

かつてサルトルは、アフリカで子どもが飢えて死んでいる時『嘔吐(おうと)』は無力であると語った。では、パレスチナでパレスチナ人が非常事態を日常として生きている時、小説を書き、小説を読み、小説について語ることに、いったいいかなる意味があるのだろうか――。

二〇〇二年四月、私は、重度の外出禁止令がしかれた――外を動いているものは猫でも撃たれたという――(注)ベツレヘムの街を、防弾ヴェストに身を包んだパレスチナ人の青年たちに案内されて回っていた。ヴェストの背には、報道関係者を表す「ＴＶ」の文字が黄色いビニール・テープで大きく貼られていた。青年たちはボランティアで外国人ジャーナリストが占領下の街を取材するのを手伝っている。外出禁止令下の街に彼らが出るには防弾ヴェストが必要だが(それは彼らにとって外出が死のリスクを負うもの

であることを意味する）、屋内で囚われ人になっている二十代の青年たちには、太陽の日ざしを浴び、戸外の大気に触れる貴重な機会でもある。青年の一人、アウニーが言う。

「先日も友人の一人が撃ち殺された。遺体を前に、僕はカメラを回せばいいのか、泣き叫べばいいのかわからなかった……。」

アウニーらに案内されて一軒の家を訪ねた。伝統的な、パレスチナの白い石造りの家。バルコニーには四月の太陽を浴びて色とりどりの花が咲き乱れていた。洗濯物を干しにバルコニーに出て撃ち殺された者もいる中で、アそれでもなお人々は、バルコニーを飾る花を枯らしはしなかったのだ。

リヴィングでレモネードをいただきながら家族の話を聴く。パレスチナの家庭を訪ねると必ず、大きなガラスのコップになみみと注いだ冷たいレモネードをふるまわれる。何軒か回るともう、体の向きを変えただけで胃の中でタポタポと音がするのが聴こえるようだ。バルコニーに咲き乱れる花同様、何週間も外出を禁じられながら、それでもなお彼らが、客人をもてなすレモネードをきらしてはいないことに驚かされる。

何週間も自宅で囚人となるとは、どんな経験なのか。

「ときどき気が狂いそうになることがあります。」その家の二十代半ばの娘さんが言う。「でも、本を読んだりして気を紛らわしています。」

その時は気にとめず、そのまま聞き逃してしまったその言葉を、今、思い起こしてハッとさせられる。何の本を読んでいるのか訊ねはしなかったので、それが文学作品かどうかはわからない。でも、彼女のその言葉は、パレスチナでパレスチナ人が生きていることそれ自体が犯罪であるかのように、日々人が殺され、自らの祖国で占領の捕囚となっている時、文学は何ができるのか、その問いに対するA紛れもない一つの答えとしてあった。文学は、人間がこのようなB不条理な情況にあってなお、人間として正気を保つために、言いかえれば人間が人間としてあるために存在するということ。バルコニーを彩る花、客人をもてなすレモネードと同じように。

その言葉は、かつて、アフリカで子どもが飢えて死んでいるのを前に文学は何ができるかと問うたイサルトルの問いにはらまれたある種の(注)エスノセントリズムをあぶりだす。作家たるもの、今日飢えている二十億の人間の側に立たねばならず、そのためには文学を一時放棄することもやむをえない、というサルトルの言葉は、文学という営み――作品を書き、読むという営み――をC此岸に、アフリカで飢えて死んでいる子どもを彼岸に対置する。しかし不条理な現実の中で人間が正気を保つために文学を読むのだとすれば、サルトルの提起とは反対に、アフリカで飢えて死んでいく者たち、彼岸の飢えている二十億の人間たちこそが、他の誰にもまして切実に文学を必要としていると言えるのではないか。そうでないなら、文学とは、北の世界の、飢えを免れた者たち、つつがなく安寧に暮らせる者のみが特権的にD享受する奢侈品ということになりはしないか。

飢えて今にも死にそうな子どもは本など読めないにちがいない。だが、その子が実際問題として文学を読めないという事実は、その子が文学を必要としていない、ということを意味するのだろうか。瀕死の床の中で小説が読めたとして、その子は遠からず死ぬ。だが、その子が死ぬことが百パーセント確実であるとして、だから小説はその子にとって無力である、今小説を読むことがその子にとってなんの意味もないと、なぜ、言えるだろう。

(注)アウシュヴィッツから奇跡的に生還を果たした(注)プリーモ・レーヴィは、絶滅収容所の証拠隠滅を図る親衛隊(注)によって他の収容者たちとともに連れ去られ(いわゆる「死の行進」)、二度と戻ってこなかった。その意味で文学は彼を救いはしなかった。だが、それでも、アウシュヴィッツで人が人たることをやめ、生きながらにして死んでいる時に、『神曲』はレーヴィとその友人にとってかけがえのない魂の滋養であったことを、もしレーヴィが生き延びえなかったならば――それは十分にありえたことだ――忘却の穴に葬り去られていたウそのことを、私たちは、彼の奇跡的な生還によって知る。最も非人間的な情況におかれた彼らこそが、しかし、それゆえに誰よりも切実に文学を、芸術を、必要としていた。一切の尊厳を否定しようとする暴力に抗して、その生が続くかぎり人間として、人間らしくあるために。

レーヴィの友は解放を目前に、絶滅収容所の証拠隠滅を図る親衛隊(注)によって他の収容者たちとともに連れ去られ(いわゆる「死の行進」)、二度と戻ってこなかった。その意味で文学は彼を救いはしなかった。だが、それでも、アウシュヴィッツで人が人たることをやめ、生きながらにして死んでいる時に、『神曲』はレーヴィとその友人にとってかけがえのない魂の滋養であったことを、もしレーヴィが生き延びえなかったならば――それは十分にありえたことだ――忘却の穴に葬り去られていたウそのことを、私たちは、彼の奇跡的な生還によって知る。最も非人間的な情況におかれた彼らこそが、しかし、それゆえに誰よりも切実に文学を、芸術を、必要としていた。一切の尊厳を否定しようとする暴力に抗して、その生が続くかぎり人間として、人間らしくあるために。

人間が人間であることの臨界点を現出させたアウシュヴィッツで、文学が人間存在の根源においてその生を支ええたなら、アフリカにおいてもそうではないのだろうか？

人間を人間ならざる者としてまなざす他者の視線が、人間の存在の深奥においてその人間性を蝕（むしば）むのなら、飢えて死んでいくアフリカの子どもたちに文学は無力である、すなわち彼らに文学は意味をもたないとみなすこと、人間らしく生きることを奪われているからこそ彼らの魂が何にもまして文学を希求しているのだということを否定することは、彼らの人間性それ自体を否定することにほかならず、極言すればその視線の中で、アフリカの子どもたちは既に人間として殺されているとは言えまいか――。

（岡 真理『アラブ、祈りとしての文学』による）

（注）パレスチナ … 地中海東岸の土地。十九世紀以降ここに移住してきたユダヤ人と、先住民であるパレスチナ人との間で紛争が続いている。

サルトル … Jean Paul Sartre フランスの哲学者。作家。『嘔吐』は彼の小説作品。（一九〇五―一九八〇）

ベツレヘム … パレスチナのヨルダン川西岸に位置する都市。

エスノセントリズム … ethnocentrism 自民族中心主義。

アウシュヴィッツ … ポーランド南部オシフィエンチム市のドイツ語名。またナチスがユダヤ人を絶滅させるためにこの場所に建てた収容所をもさす。

プリーモ・レーヴィ … Primo Levi イタリア生まれのユダヤ人作家。化学者。『これが人間か』は自らのアウシュヴィッツからの生還体験を描いたもの。（一九一九―一九八七）

ダンテ … Dante Alighieri イタリアの政治家。詩人。『神曲』は「地獄編」「煉獄（れんごく）編」「天国編」から成る彼の詩作品。（一二六五―一三二一）

親衛隊 … ナチスの総統ヒトラーの護衛のために結成された組織。第二次世界大戦中は、ユダヤ人の大量虐殺に関与した。

問一　傍線部A～Eの言葉の意味として、本文に即して最も適切なものをそれぞれ一つずつ次から選び、番号で答えなさい。

A　紛れもない
1　多くの人に広く知られていること
2　誤解を招きやすく、はっきりしないこと
3　複雑で容易には理解できないこと
4　他の意見と対立していること
5　疑いの余地がなく、まちがいないこと

B　不条理な
1　人間の感情や思いやりが欠けていて、冷酷であること
2　理屈や道理では説明できず、納得できないほど不合理であること
3　社会的な秩序や規則に反しており、罰せられるべきであること
4　混乱していて物事の判断ができないほど混沌としていること
5　危険が大きく、生命が脅かされるほど緊迫していること

C　此岸
1　現実に生きているこの世界
2　宗教的に救われた理想の世界
3　死後の世界やあの世
4　精神的に純化された内面の世界
5　人間が到達すべき倫理的な理想

D　奢侈品

1　生きていくためにどうしても必要な必需品
2　高価で、主にぜいたくや楽しみのために用いられるもの
3　誰でも簡単に手に入れられる日用品
4　国や社会が公的に支給する物資
5　長い歴史や伝統をもつ文化的遺産

E　臨界点

1　物事が完全に壊れてしまった最終状態
2　ゆっくりと徐々に変化していく過程
3　人間としての尊厳が回復される転換点
4　ある状態が限界に達し、質的に変化するぎりぎりの地点
5　平穏で安定した均衡状態

問二　波線部ア「それでもなお人々は、バルコニーを飾る花を枯らしはしなかったのだ」とあるが、その理由として最も適切なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1　外出禁止令が解除される見通しがあり、近く客を迎える準備をしていたから。
2　花は生活に不可欠な資源であり、食料や薬として利用する必要があったから。
3　厳しい状況の中でも、人間としての尊厳や日常の美しさを守ろうとしたから。
4　軍や占領者に抵抗する象徴として、戦略的に花を利用しようとしたから。
5　花を枯らすと周囲の人々から非難されるため、社会的体面を保ちたかったから。

問三　波線部イ「サルトルの問いにはらまれたある種のエスノセントリズム」について、以下の各問に答えなさい。

①　「サルトルの問いにはらまれたある種のエスノセントリズム」とはどういうことか。以下にはその説明として適切な文章が複数含まれている。適切な文章をすべて選び、番号で答えなさい（不正解が記入された場合は減点する）。

1　飢えている人々の苦しみを真剣に受け止めようとするあまり、文学の価値そのものを全面的に否定してしまう姿勢。
2　アフリカで飢えている人々を、文学とは無縁な存在として一方的に想定してしまう見方。
3　文学を、飢えを免れた「北の世界」の人々だけが享受できる特権的な営みとみなしてしまう発想。
4　アフリカの人々こそが最も切実に文学を必要としていると考える立場。
5　飢えている人々の状況を自らの価値観で理解しようとするあまり、その人間性を十分に認めていない視線。
6　文学よりも政治的行動を優先すべきだと考え、文学の社会的意義を積極的に評価する立場。
7　アフリカの人々の文化や思想を尊重し、文学の普遍的価値を強調する考え方。

②　「サルトルの問い」に対する筆者の答えを三十～五十字で説明しなさい（句読点を含む）。ただし、解答には必ず次の三つのキーワードを用いること。

〔必ず用いる三つのキーワード〕不条理な情況　／　魂の滋養　／　人間として

問四　波線部ウ「そのこと」とはどういうことか。次の枠内の文章はその説明文である。本文の言葉を用いて四十～六十字（句読点を含む）で（　　）内に記入しこの説明文を完成させなさい。

アウシュヴィッツで、（　　）ということ。

問五　本文で表現された筆者の考えと一致するものに○、一致しないものに×を書きなさい。

1　文学は戦場や飢餓の現場では何の役にも立たないため、筆者はその価値を否定している。

2　外出禁止下のパレスチナの人々が客人をもてなすレモネードをきらしていないのは、人間としての尊厳を守ろうとする姿勢の表れである。

3　筆者は、飢えている人々こそが文学を必要としている可能性を重視している。

4　サルトルの「飢えている子どもの前では文学は無力である」という立場に、筆者は全面的に賛同している。

5　アウシュヴィッツにおいて『神曲』は、身体的救済ではないが精神的支えとしての意味をもったと筆者は考えている。

6　筆者は、文学とは基本的に豊かな社会の人々だけが享受すべき奢侈品であると考えている。

7　筆者は、「人間が人間としてあること」を支える点に文学の根本的意義を見いだしている。

8　筆者は、極限状況では文学よりも政治的・軍事的行動だけが重要であると主張している。

三　次の文章を読み、後の問に答えなさい。

およそ一九七〇年代まで、日本自身のなかに、「欧米先進国」を基準にして日本の特殊性を強調する意識があった。ア海外の日本異質論は、こうした日本の研究をもとにしていることが多い。そして特殊性とは後進性とほぼ同じ意味だった。

たとえば、日本の終身雇用、年功賃金、企業別組合は、独特であると同時に古い「イエ社会」を引きずっているとされた。金融では欧米のように証券市場が発達しておらず、銀行が中心で、しかも銀行は系列の企業に深く関わりすぎているとされた。いずれも、独特であり、遅れており、不健全で[1]脆弱なものと考えられたのである。おもしろいことに、同じことがバブル時代には逆に日本の強さの源だとされ、それを説明する理論もあいついで出た。そしてバブルが[2]ホウカイすると、こんどはまた「[3]閉塞」の原因にあげられたのだった。

実際は、まったく独特なのではなく、程度の差であることが多かった。ひとくくりにされた「欧米」のなかにもだいぶ違いがあり、日本に近い国もあるのだが、それは認識できなかったのである。あとで冷静に調べてみると、終身雇用（平均の勤続年数の長さ）にせよ、年功賃金にせよ、銀行中心にせよ、少なくとも大陸ヨーロッパには日本と似たり寄ったり、あるいは日米の中間に位置する国が少なくなかった。「欧米先進諸国」と比較するといっても、多くの場合に比べる相手はアメリカで、そのアメリカ自体がかなり特異な特徴をもっているのである。

似ている国々を「くくる」のは単純にはいかないので、気をつけなければならない。たとえばヨーロッパ並みの福祉というが、イギリスとドイツ・フランス、北欧では中身がまるで違うし、北欧でも税金主体のデンマークと社会保険が大きいスウェーデンとでは違っている。また英米をアングロサクソンと一括するのも、たしかに似ている面も多いが、かなり違う面もある。アメリカ流の自己主張はイギリスでは[A]野暮であろうし、伝統に対する態度も異なる。類推で全部似ているだろうと考えるのは間違いだと知ったうえで、ある一面についてのグループ化をすべきなのである。

また、日本の特徴点は遅れのあらわれであるというより、むしろ高成長ゆえの現象という面が強かった。終身雇用以下の右のような特徴は、戦前には異なっていた。遅れのあらわれなら、より古い時代にみられないのはおかしいだろう。いまになってみれば、終身雇用や年功賃金は経済がどんどん拡大するからこそ可能であり、強みも[4]ハッキしたのだし、[5]チクセキもないなかで猛烈に投資資金を調達するには銀行から借り込むしかなかった。それを脆弱だとか不健全だとかいってもしかたなかったのである。

日本が特殊であり、遅れた面をもつというとき、その背景にアジア的な性格があり、それが西洋的な民主主義との相違を生んでいるとしばしば考えられた。

田中角栄元首相の秘書をながくつとめた早坂茂三氏には、日本社会の表と裏を知り尽くし、いわば日本社会学の天才であった田中を代弁するような著作がいくつもあるが、そのなかでくりかえし「農耕民族のムラ社会」であることこそが日本を理解する要点だと強調している。いわく、日本人は農耕民族、稲作民族であって、狩猟民族で攻撃的な欧米とは違う。農村共同体、ムラ社会で

は、みんなが外側に尻を向けて車座をつくり、自然にボスを押し立てて、B長幼の序を大事にしながら、満場一致でことを進めていく。イ疎遠な者どうしを明文ルールで統括する西洋的なやり方とは異なるのだと。

氏の話はたいへんおもしろく、感心もするのだが、このとらえ方は6サンドウできない。まず欧米は狩猟民族ではなく、定住する農耕プラス牧畜だろう。それは、アフリカの一部などに比較的最近までみられた狩猟民や、草原の遊牧民とは全然違う。

東アジアの稲作社会でさえ性格は同じではなく、農村＝共同体＝濃密で閉鎖的な人間関係、とは限らないようである。途上国研究に出てくるアメリカの文化人類学者ギアーツ(C.Geertz)の説によれば、7灌漑が必要な痩せた土地に人口が密集するジャワのようなタイプでは、水利などの協力のため濃密で閉鎖的な人間関係になるが、ベトナムのメコン・デルタやタイのチャオプラヤー・デルタなどのタイプでは、人口寡少で、アメリカの西部に似た広大なフロンティアをもち、土地は8肥沃で洪水が灌漑のかわりをするため、農村といえども濃密な共同体にはならなかったという。ウ農村といえばすべてウェットなわけではないのである。

再度いいたいが、世界や歴史の事例をよく調べないと、それらしき説明も独りよがりにおちいる危険がある。とくに文化的説明や遺伝子論、系譜論はあぶない。

日本人は自己主張せず、和を9尊ぶとよくいわれるが、そうでもないだろう。テレビ・ドラマにもよく出てくるように、親戚内の財産争いなどでは激しく自己主張するのではないか。要するに、勝てそうなときには徹底的に主張するが、自己主張すると反撃が強く、かえって損になりそうなときは黙っておくという選択をする。すると、むしろ徹底的な損得10カンジョウがくりひろげられているのが日本社会だといえる。ある条件のもとで損得10カンジョウ合戦が展開された結果、外観として「和」があらわれるというパターンである。そういうしくみを具体的に解剖してみせないと、わかったような説明もあぶない。

（伊藤 修『日本の経済』による）

問一　傍線部1～10のカタカナは漢字に、漢字は読みをひらがなで書きなさい。漢字は楷書で丁寧に正確に書くこと。ひらがなは丁寧に、濁音などははっきり見えるように書くこと。

問二　二重傍線部A、Bの言葉の意味として、本文に即して最も適切なものをそれぞれ一つずつ次から選び、番号で答えなさい。

A　野暮

1　言動が野蛮で粗暴なこと、暴力的であること
2　言動が野原で暮らすようにのんびりとしているさま
3　言動が扇情的であること
4　言動が洗練されていないこと、無風流なこと
5　言動が都会的で垢(あか)抜けているさま

B　長幼の序

1　兄弟姉妹の間にある序列
2　親と子の間にある情
3　年長者と年少者の間にある秩序
4　先輩と後輩の間にある順序
5　男性と女性の間にある秩序

問三　波線部アについて、筆者の考えを説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1　終身雇用など特殊で後進的だと言われた事象は、実際にはなかった。そもそも、地理的近接性もなく文化的に異なる欧米先進国と比較したのが間違いであり、比較するなら地理的にも文化的にも近く、同じ農耕民族で稲作を主とするアジア諸国と比較するべきだった。また、これらの事象は、欧米先進国の前時代にも見られなかったものであり、後進的かどうか判断できないはずだ。

2　終身雇用など特殊で後進的だと言われた事象は、大陸ヨーロッパでも程度の差はあれ見られたものもある。その上欧米先進国とひとくくりにして比較対象としているが、実際に比較対象とされたアメリカは大陸ヨーロッパとはかなり異質な国である。さらに、これらの事象は、日本が経済成長期にあった時代だからこそ現れたもので、それ以前には見られなかったものであるから、後進的とも言い切れない。

3　終身雇用などは日本に特有で欧米より遅れていると言われるが、実はそれは思い込みであった。実際は欧米の国の中にも同じような制度を持つところもあったのに、先入観から無いと思われてきただけである。遅れているという点は、アメリカと比較して遅れているだけであって、大陸ヨーロッパと比べると遅れてはおらず、後の研究から大陸ヨーロッパに先んじて制度が整備されていたことが明らかになった。したがって、むしろ日本の方が先進的であったと言える。

4　終身雇用などは日本に特有だと思われてきたが、それは違う。日本に特有というより、日本の歴史の中において、高度経済成長期特有の事象ととらえるべきである。なぜなら、戦前の日本にはそのような事象は見られなかったからである。ということは、後進的ともいえないはずである。国によって制度が異なるのは当たり前のことだから、その国の歴史の中で、時代時代を比較するべきである。

5　終身雇用など特殊で後進的だと言われた事象は、実際には欧米先進国の中でも見られたものであった。しかし、当時は情報技術も未発達で、知られていなかったに過ぎない。したがって、特殊でも後進的でもなかった。また、比較対象を欧米先進国としているが、ヨーロッパ諸国に比べてアメリカはかなり特殊な国だから一括するべきではない。また、ヨーロッパの国も、それぞれ特殊で、同じ制度を持つ国は一つもないのだから、欧米先進国と比較すること自体意味がない。

問四　波線部イ「疎遠な者どうしを明文ルールで統括する西洋的なやり方」の説明として、本文の内容を踏まえ最も適切なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1　移動しながら暮らす人々は、移動先での先住民とのトラブルを避けるため、常に契約書を持ち歩き、移動先で先住民との間で合意に達した場合、双方がサインし契約を成立させるという方法。

2　集団でとらえた獲物の所有権、分配方法をあらかじめ決めておき、それを文章化して共有しておくことによって、時代が変わっても常に同じ基準で考えることができ、トラブルが避けられるという方法。

3　獲物を捕らえる方法を文章化し、共同体の中で共有しておく。この方法は同じ共同体に属する者の間で代々伝えられるもので、他の共同体に属する者には決して教えない。それぞれの共同体が独自のルールを持つため、国家が各共同体のルールを調整する役割を担うという方法。

4　異なる文化的背景や習慣を持ち、もともと親密ではなかった者が集まって新たに共同体を形成する場合に、守るべきルールを決め、それを文章化して共有し、皆がこれに従って行動するという方法。

5　様々なところから集まってきて新たな共同体を形成する場合に、それぞれが持っていた文明をお互いに尊重しながら、新しい文明を作っていく。できあがったものを文章化して、後世に伝えていくことでトラブルを避けるという方法。

問五　波線部ウ「農村といえばすべてウェットなわけではない」とあるが、ウエットはある言葉の言い換え表現であると考えられる。その言葉とは何か。本文の中から抜き出して書きなさい。